

失望という名の言い訳

南那珂支会代表 山之口 万結

投票率が低いこの現状は、もはや誰もが知っていることです。その原因の一つに若者の政治への不参加があることも、また当たり前となりつつあります。今年から有権者として投票の責任を持つ自分のためにも、私達の将来のためにも若者の投票率の低下の理由を自分なりに考えてみようとも思います。

身の回りの友人と選挙の話をすると、自分も含めまず「どうせ投票しても何も変わらない」という諦めや政治への不信感が挙がります。自分たちは投票しないのにも関わらずこのようなことを言うのは、選挙に対する意識が低いと思われるかもしれません。ですが、ニュースなどで報道されるのは、水掛け論の国会、居眠りやゲームをして追求される議員など悪い印象のものばかりです。特に一昨年9月、宮崎市議会選挙に2位で当選し活動していた元議員が、知人の女性に性的暴行を加えた罪で実刑判決を受けたというニュースは印象的でした。政治家を信頼できないという意見も、若者の政治への不参加の原因の一つかもしれません。

しかし、このニュースは実際のほんの一部のことではないのでしょうか。そのような出来事が常に起こっていれば、私達の生活は今のようには充実していないでしょう。そうならないのは、私達の生活や未来のために日々議員として活動されている方の努力のおかげでしょう。そのような人々のニュースではなく、悪い印象のニュースばかりが報道され注目されるのは、若者の政治への不信感を更に募らせるだけだと思います。

ここで私は、実際の議会の活動内容を知る方法を知らないことに気づきました。選挙に行き投票する流れは、高校で行われる生徒会選挙などを通じてなんとなくはわかります。しかし、当然ながら実際の選挙は体育館で立候補者演説を聞き投票するわけではありません。そこで両親に情報を得る方法について聞いたところ、新聞や選挙公報、議会だより、立候補者が個人で出す便りやSNSなど、想像よりも様々な方法がありました。しかし、ある程度は自分で調べる必要があります。当たり前と言えばそうかもしれませんが、その手間が面倒だと感じなくもありません。より簡単に「情報を与えてもらいたい」「情報を集めるのは面倒だから他人に任せる」という思いが、若者の投票率の低さの根底にあるのかもしれません。また、もし情報を与えられたとしてもその情報を選び自分で噛み砕く力が無ければ意味がありません。だからこそ、その力をつけるために学校の教育などで選挙、政治に触れているという実感をより感じられるべきだと思います。

ですが選挙で投票した後、有権者はその効果をどのように実感するのでしょうか。これも両親に聞いてみたところ、当選者が自分の公約を実現したり、自分たちの気に

なっていた問題について議会で提言し行政に働きかけてくれたりしたことで効果が実感できたようです。また、これらの情報は議会だよりや、候補者・政党が発信する情報で知ったそうです。

ところで一昨年の日南市議会選挙では立候補者と定員がちょうどだったため、立候補者がそのまま議員となったそうです。この時選挙は行われず、議員を市民が選ぶことはできなかったそうです。このことに私は賛同しません。これには定員の枠を減らすべきだという考えもあるそうですが、例え定員に達していなくとも、立候補者が自分たちの住む自治体をよりよいものに変えてくれるか考える機会になる選挙を行うべきだと思います。

これまで話したことはすべて地方選挙を前提としていますが、選挙の規模に関わらず大切なのは、選挙について知るという態度だと思います。政治に期待できない、失望したと言って投票しないのはただの甘えです。知ろうとする者にしか選挙の、政治の実態は見えないと思います。